

第8回世田谷区基本構想審議会 議事要旨

【日 時】 平成25年4月18日(木) 午後6時30分～午後7時42分

【場 所】 世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

【出席者】

委員 大橋謙策、小林正美、竹田昌弘、永井多恵子、坂東眞理子、宮台真司、森岡清志、森田明美、上野章子、宇田川國一、大森猛、桑島俊彦、永井ふみ、松田洋、宮田春美、宮本恭子、風間ゆたか、上島よしもり、桜井純子、高橋昭彦、村田義則(以上21名)

区 保坂区長、秋山副区長、田中基本構想・政策研究担当部長、宮崎政策経営部長、城倉地域行政担当部長、望月基本構想・政策研究担当課長、小田桐政策企画課長、笹部計画担当課長

【議事概要】

1 世田谷区基本構想審議会答申(案)について

- ・「一方、金融、労働、情報などのグローバル化が進み、地球資源に限界にも直面しています。少子高齢化によって、世田谷区でも人口構成が大きく変わり、単身・高齢者世帯がますます増えていきます。」は、違和感なく読めるよう前後を入れ替え「一方、少子高齢化によって、世田谷区でも人口構成が大きく変わり、単身・高齢者世帯がますます増えていきます。金融、労働、情報などのグローバル化が進み、地球資源の限界にも直面しています。」に変更する。
- ・「個人の尊厳を尊重し、年齢、性別、国籍、障がいの有無、居住年数などにかかわらず、多様性を認め合い」は、「居住年数」だけでは「新住民であろうと長く住んでいた住民であろう」という意味以外に受け取られかねない恐れがあるため、「個人の尊厳を尊重し、年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い」に変更する。

2 各委員からの感想

(1) 会議全般にかかる感想について

- ・世田谷区にとっての日本国憲法にあたるような中身の濃いよい答申になった。
- ・審議会だけでなく、無作為抽出のワークショップや意見交換会などさまざまな場面から出てきたいろいろな考え方や言葉が答申に散りばめられている。
- ・審議会の経験を通じて、今後も主婦の立場からいろいろな意味で区政に参加していきたい。
- ・参加したことで得られた議論の経験や、ここで生まれたつながりを今後の糧とし、ともに地域の暮らしの中で基本構想を実現していきたい。
- ・世田谷区にある悪いところにも目をつぶらず発展の材料とすることで、結果として世田谷区が目に見える形で23区を引っ張っていけるとよい。
- ・わくわく感が持てるような基本構想ができるとよいと思って参加した。これからの世田谷区がどうなるのか、この構想をもとに区民と一緒に20年間わくわくしながら進めたい。
- ・区民一人ひとりが基本構想に対してどこか一つだけでも自分のものだと思える点があればよいという思いでつくってきた。そのために多様性という言葉にこだわり、それも盛り込むことができた。20年後の世田谷区では民主主義が根つき、その力を区民が育んでい

て、多様性という言葉が言われたいような社会にしていくべきである。

- ・区職員からの提案である「区は最大で最強のフォロワー」を実現させるためにも、基本構想はホームページに掲載されているだけではなく、アプリで見ることができたり、こたつで話あえたりするような身近な構想にしていく必要がある。
- ・基本構想の文章自体はシンプルであるが、毎回の議論を公開することができた。これまでの議論を通じて、基本構想の行間から政策化していくことが大切である。
- ・基本構想を絵に描いた餅にせず、実行していくことが重要である。
- ・今後、基本計画等を策定する中で、議会は区民の思いをしっかりと受け止めたい。

(2) 地域の自治について

- ・基本構想・大綱等を現場サイドに持ち寄りながら、現場とのマッチングを考えたい。
- ・地域行政の中心として、総合支所やまちづくりセンターなどが区役所の代わりとなるような、立派なものになるとよい。
- ・基本計画策定の際には、地域ビジョンを具体的で地域に沿ったものにできるかが重要であり、地域の資源を生かして地域の住民とつくっていけるとよい。
- ・区立小学校が地域のコミュニティの核として、様々な側面で活用されるという未来像がみえ、子どもたちにとっても楽しい社会になるだろう。
- ・「第3の分権化」という文脈から小学校区単位での分権化の必要性について言及したが、このキーワード自体は掲載されなかった。区政は今後「第3の分権化」をどうするのか議論していく必要がある。
- ・基本構想の議論の中で、ワークショップなどを通じて、これまで区政にあまり興味がなかったかも知れない人も含めて、多くの区民に参加をいただいた。多くの人に注目されることで、基本構想案中にあるような「自治の発展」を一つの場面として体験できた。
- ・基本構想策定の議論を通じて、人々の間に学びが起こり、次に進むことができる。こうしたプロセスは非常に大切である。自治に無頓着になることで東日本大震災の時に様々な問題が生じた。システムに依存しない関係性を日頃から創造していき、その戦略として参加と包摂を旨とする自治が必要であろう。

(3) その他個別事項

- ・区庁舎は23区で最も古いため、大災害に備え、一日も早く改築もしくは別の場所に新たに建造した方がよい。
- ・子育て世代に限らず介護をしている人など、このような機会に参加することにハードルがある人にとっては、時間や日時だけでなく、社会全体を変えていく必要があるだろう。
- ・「地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする」ということで、産業ビジョン等々の精神を入れることができている。
- ・区民に最も身近なウェルフェアである図書館に関する言及ができてよかった。この数十年をみても文化に関わる環境はあまり向上していないため、今後整備されていくとよい。
- ・今後は基本構想を踏まえて10～17歳の子ども・若者向けの基本構想も策定したい。
- ・今後20年間で大きく経済情勢は異なると思われるため、10年後くらいには作り直した方がよい。